

第94回 品質管理シンポジウム

日時：2012年6月7日(木)～9日(土)

会場：箱根ホテル小涌園

主催：財団法人日本科学技術連盟

後援：日本経済新聞社，一般社団法人日本自動車部品工業会，社団法人日本品質管理学会
※後援団体には現在依頼中

「持続可能な社会構築に向けた品質経営」 — エコロジー(環境)とエコノミー(経済)の両立を目指して —



特別講演 1

『環境革命の時代
—自然との応答関係を感性価値とした
日本のモノづくりに学ぶ—』

涌井 史郎 氏

東京都市大学 環境情報学部 教授



講演 1

『日産自動車の環境に対する取り組みと
電気自動車リーフについて』

富田 公夫 氏

日産自動車(株) フェロー
パワートレイン技術担当 執行役員



特別講演 2

『あたらしい「暮らしかた」と
「ものづくり」の新潮流を考える』

石田 秀輝 氏

東北大学大学院 環境科学研究科 教授



講演 2

『生物多様性からの
持続可能な商品と経営』

更家 悠介 氏

サラヤ(株) 代表取締役社長



講演 3

『日東電工における
環境に配慮したモノづくり』

相澤 馨 氏

日東電工(株) 代表取締役 専務執行役員
品質・環境・安全統括部門長

最新情報はこちらをクリック!!

第94回 品質管理シンポジウム

検索

第94回 品質管理シンポジウム 講演概要

6/7(木) 特別講演 1

『環境革命の時代—自然との応答関係を感性価値とした日本のモノづくりに学ぶ—』 涌井 史郎 氏 東京都市大学 環境情報学部 教授



今地球環境がティッピングポイントを迎えつつある状況にある事は、周知のとおりです。そうした状況を背景に、ものづくりに対する要求品質は、これまでの機能や性能のみならず、製品化プロセスにおける環境への配慮、製品それ自体が消費者自身の健康、或いはその生活環境とライフスタイルを改善する事に貢献する価値、つまり感性価値の充足にも応えねばならぬ時代となりました。実はこうした観点が、自然との応答関係から生活の主流を占めたのが日本の歴史です。それはある種、未来に向け獲得せねばならぬ解、日本モデルとも言うべきものでしょう。産業革命から環境革命に転換をしようとする今、自然の応力に柔軟に対応し、その恵みを最大化してきた日本モデルの本質を、歴史共に振り返る事こそが、未来への確かな解を手にする事に繋がるのではないのでしょうか。

6/8(金) 特別講演 2

『あたらしい「暮らしかた」と「ものづくり」の新潮流を考える』 石田 秀輝 氏 東北大学大学院 環境科学研究科 教授



地球環境問題があらゆる場面で喫緊の課題であることは、だれもが認めるところです。一方では、エコ商材をつくればつくるほど、環境劣化が加速している(エコ・ジレンマ)ことも事実なのです。これはテクノロジーが人のためにではなく、テクノロジーのために進化しているところに大きな問題を抱えているのです。今こそ、テクノロジーがライフスタイルに責任を持つあたらしい時代に、大きく舵を切らなくてはならないと思うのです。そして、そのためには、バックキャスト思考による、あたらしい暮らし方の「かたち」の定義と、自然のすばさを賢く活かす日本流のものづくりによる、あたらしい価値のパラダイムシフトを興さなければならないのです。

6/8(金) 講演 1

『日産自動車の環境に対する取り組みと電気自動車リーフについて』 富田 公夫 氏 日産自動車(株) フェロー パワートレイン技術担当 執行役員



地球環境を守り、資源の有効活用を図りながら、持続可能な社会の実現をどう進めるかが、我々に求められる最大の課題になっています。特に自動車においては、生産工程だけでなくお客様の使用過程でのCO₂排出量が非常に大きいという特徴を持っています。そういった中で、日産自動車が環境に対してどのように取り組み、世界に先駆けてグローバルに発売した電気自動車リーフはどういった意味を持っているのか紹介いたします。

6/8(金) 講演 2

『生物多様性からの持続可能な商品と経営』 更家 悠介 氏 サラヤ(株) 代表取締役社長



サラヤの石鹸・洗剤の主要原料は、パーム油など植物油脂です。近年、パーム油の需要が急増し、生産が増加し、熱帯雨林の伐採が大規模に進行しています。その結果、オランウータンや象など野生生物が影響を受け、生物多様性の喪失が懸念されるようになりました。当社では、あるテレビインタビューを契機に、気付きがあり、持続可能性とは、原料供給の持続可能性のみならず、消費者の意識や行動も含めたビジネスの持続可能性にも繋がることを認識しました。そしてすぐさま、できることから始めようと、行動を起こしました。持続可能なパーム油の認証の団体の運動に参加し、制度づくりに貢献し、制度を活用した製品開発を、日本で初めておこないました。またNPOや保全トラストと共に行動して、ボルネオに生物多様性が維持される「緑の回廊」の保全運動を始めました。この運動はその後更に発展し、2012年には、ボルネオの現地に象の保護園ができることになりました。

6/8(金) 講演 3

『日東電工における環境に配慮したモノづくり』 相澤 馨 氏 日東電工(株) 代表取締役 専務執行役員 品質・環境・安全統括部門長



昨今、全世界で気象が過激になり多くの災害をもたらしています。温室効果ガスの影響が大きいと言われてます。人口が70億人を超え、さらに増加すれば、地球の包容力にも限界が来るでしょう。また、新規の化学物質の登場は、工業の発展に大きく寄与してきました。しかし、その反面、時には、環境ホルモンとして、大きな影響を与えることもあります。我々は、時代における責任を鑑む必要に迫られています。即ち、エネルギー、温室効果ガス、化学物質などの制御・管理を積極的に行うことが必要となりました。これは、環境だけでなく、安全・品質とも連動し、環境に優しいモノづくりは、企業にとって必須となりました。いくつかの事例を踏まえて活動の一端を紹介します。

品質管理シンポジウム賛助会員入会のご案内

当財団は、創立以来その社会的使命に鑑み主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目を浴びるまでに成長いたしております。

しかしながら、最近の食品、宇宙開発、原子力、運輸、医療などの安全性を重視する分野や巨大技術分野で、記録的に大きな事故が発生しています。日本の強さであった品質や技術力にも陰りが見られることも見逃せません。

今日のように激変する経営環境の中で、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの裨益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されるとともに、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためにはまた関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的に開催しておりますのは、この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。

是非、本シンポジウム賛助会員にご入会いただきますようご案内申し上げます。

過去の主な講演者（組織名・役職は講演当時の表記になっております）



第93回
一橋大学大学院 教授
一條 和生 氏



第92回
中村ブレイス 社長
中村 俊郎 氏



第91回
良品計画 会長
松井 忠三 氏



第90回
山本化学工業 社長
山本 富造 氏



第89回
新日本製鐵 代表取締役会長
三村 明夫 氏



第89回
日本マクナルド会長兼社長兼CEO
原田 泳幸 氏



第88回
小松製作所 代表取締役会長
坂根 正弘 氏



第88回
日本IBM 会長
大歳 卓麻 氏



第87回
花王 前会長
後藤 卓也 氏



第87回
テルモ 代表取締役会長
和知 孝 氏



第86回
経済同友会 代表幹事
桜井 正光 氏



第85回
サムスン電子 副会長
Y. W. Lee 氏



第84回
同志社大学 客員研究員
ロバートE コール 氏



第83回
経団連 名誉会長
奥田 碩 氏

品質管理シンポジウム 賛助会員会社（日科技連賛助会員とは異なります）※2012年3月1日現在

- | | | | | |
|-------------------|---------------------|----------------|-----------------|------------------|
| 1 アイシン・エイ・ダブリュ(株) | 13 コニカミノルタ | 23 JUKI(株) | 35 (株)日科技連出版社 | 47 前田建設工業(株) |
| 2 アイシン精機(株) | ホールディングス(株) | 24 積水化学工業(株) | 36 日産自動車(株) | 48 (株)前田製作所 |
| 3 (株)アドヴィックス | 14 (株)小松製作所 | 25 ダイヤモンド電機(株) | 37 日産車体(株) | 49 三島食品(株) |
| 4 (株)IHI | 15 サンデン(株) | 26 (株)竹中工務店 | 38 日本電気(株) | 50 (株)村田製作所 |
| 5 大塚化学(株) | 16 サンデンシステム | 27 (株)千代田グラビヤ | 39 (株)日本科学技術研修所 | 51 (株)メイドー |
| 6 オムロン(株) | エンジニアリング(株) | 28 (株)デンソー | 40 (株)羽生田製作所 | 52 名北工業(株) |
| 7 鹿島建設(株) | 17 サンデン物流(株) | 29 東海ゴム工業(株) | 41 パナソニック(株) | 53 (株)安川電機 |
| 8 関西電力(株) | 18 サンワテック(株) | 30 トヨタ自動車(株) | 42 日野自動車(株) | 54 ヤマハリビングテック(株) |
| 9 キヤノン電子(株) | 19 (株)ジーシー | 31 (株)豊田自動織機 | 43 富士ゼロックス(株) | 55 (株)ユニバース |
| 10 (株)ケイ・シー・シー | 20 (株)ジーシーデンタルプロダクツ | 32 長津工業(株) | 44 富士電機(株) | 56 (株)リコー |
| 11 コーセル(株) | 21 (株)ジェイテクト | 33 ナゴヤダクロ(株) | 45 フジミ工研(株) | 57 リコーエレメックス(株) |
| 12 コニカミノルタ | 22 清水建設(株) | 34 日華化学(株) | 46 ペンてる(株) | 58 リコーロジスティクス(株) |
| ビジネステクノロジーズ(株) | | | | |

品質管理シンポジウム 賛助会員特典・入会費用

- 特典 1** 品質経営（革新）のための次代の指針と最新情報が入手できます。
- 特典 2** 参加企業各社の品質に関する最新情報が入手できます。
- 特典 3** 本シンポジウムに毎回1名様が無料で参加でき、2名様以降は特別価格でご参加いただけます。
- 特典 4** 本シンポジウム、発表報文集・実施報告が無料で入手できます。
- 特典 5** 小田原駅から会場（箱根ホテル小涌園）まで会員限定の無料送迎サービスをご利用いただけます。
- 特典 6** 一部の講演を会員専用ページから視聴いただけます。（講演者の許可を得た映像に限りませんので不定期です）

入会費用 1口につき年額182,700円（消費税含む）

上記入会金をお支払いいただきますと 1名様参加枠（無料）を確保できます。
2名様から特別価格（42,000円）でご参加いただけます。

問い合わせ／入会申込み

E-mailまたはお電話にてご連絡いただければ、品質管理シンポジウム賛助会員申込書をお送りさせていただきます。

財団法人日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当（茂田／清田）

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL：03-5378-1213 FAX：03-5378-9842 E-mail：tqmsemi@juse.or.jp

趣旨



大久保 尚武 氏

積水化学工業(株)
取締役相談役

第94回品質管理シンポジウム
主担当組織委員

21世紀は環境の世紀です。1992年、地球環境問題に危機感をもった国連は、初の環境サミットをリオデジャネイロで開催しました。それから20年、この間、各国・各層のさまざまな努力にもかかわらず、地球環境はその深刻さの度合を年々深めています。世界の気候は間違いなく変動をきたしています。生物多様性の破壊は陸でも海でもますます進んでいます。このままでは大変なことになる、皆がそう感じはじめています。

限りある地球環境・自然資源の中で、どうすれば持続可能な社会を構築できるか、それが現在の人類社会に突き付けられた最大課題なのです。そして、企業も社会の一員として、この課題に真剣に取り組まなければなりません。取り組みの鍵は、エコロジー（環境）とエコノミー（経済）の両立にあると思います。人々が幸せになるためには、経済を発展させなければなりません。しかし、今や地球環境を無視した経済発展は許されません。この矛盾をどう克服していくのか、それが求められているのです。

そして品質経営にも新たな視点を取り入れることが求められます。すなわち品質というコンセプトの中に、「エコロジー（環境）」という要素を明確に位置づけ「製品設計」「材料調達」「製造プロセス」「配送出荷」等を考える際に、環境配慮

の視点を必ず取り入れることが求められるのです。すぐれた品質経営のためには、次のような総合的・多面的な環境配慮の視点が必要な時代になっているのです。

1. 製品が社会のなかで使用される際に、環境にかかる負荷はできるだけ小さくしたい。できれば環境を良くする製品ならなお良い。
2. 使用される原材料は、できるだけ再生可能原材料にしたい。エネルギーも同様で自然エネルギーの比率を高めるのが望ましい。
3. 製造プロセスでの環境配慮は大切だ。省エネ、省資源に努めるとともに廃棄物を少なくし、環境を汚さないようにしたい。

従来の品質保証プロセスに加えて、このような環境配慮の視点を取り入れて、企業活動全体を「持続可能な社会の構築」という大きな目標に沿ったものにしていく必要があるのだと思います。

今回のシンポジウムでは、このような大きな課題について、幅広く専門家並びに先進企業経営者に講演していただきます。さらにさまざまな分野の方々によるグループ討議を通じて、認識を深めていただく機会になればと考えます。幅広い皆様の参加を期待します。

本シンポジウムの の特長

- ① 今後の日本の品質管理の指針を示します。
- ② 質疑応答の時間を設け、日本を代表するゲストスピーカーから深掘した話を聞くことができます。
- ③ 「談話室」「グループ討論」「立食パーティー」など参加者が交流できる場を数多くご用意しています。

プログラム		開催期日：2012年6月7日(木)～9日(土) 会場：箱根ホテル小涌園	
月日	時間	科目	講演者
6/7 (木)	19:30～20:40	<特別講演1> 『環境革命の時代 —自然との応答関係を感性価値とした日本のモノづくりに学ぶ—』	涌井 史郎 氏 東京都市大学 環境情報学部 教授
	20:40～21:00	質疑・応答	
	21:00～22:00	グループ討論メンバー自己紹介	
	22:00～23:00	談話室（参加自由）	
6/8 (金)	8:30～8:40	主催者挨拶	財日本科学技術連盟 役員
	8:40～8:50	<オリエンテーション> 『「持続可能な社会構築に向けた品質経営」 —エコロジー（環境）とエコノミー（経済）の両立を目指して—』	大久保 尚武 氏 積水化学工業(株) 取締役相談役 ※94QCS主担当組織委員
	8:50～10:00	<特別講演2> 『あたらしい「暮らしかた」と「ものづくり」の新潮流を考える』	石田 秀輝 氏 東北大学大学院 環境科学研究科 教授
	10:00～10:20	質疑・応答	
	10:20～10:40	休憩	
	10:40～11:40	<講演1> 『日産自動車の環境に対する取り組みと電気自動車リーフについて』	富田 公夫 氏 日産自動車(株) フェロー パワートレイン技術担当執行役員
	11:40～11:50	質疑・応答	
	11:50～12:40	昼食・休憩	
	12:40～13:40	<講演2> 『生物多様性からの持続可能な商品と経営』	更家 悠介 氏 サラヤ(株) 代表取締役社長
	13:40～13:50	質疑・応答	
	13:50～14:50	<講演3> 『日東電工における環境に配慮したモノづくり』	相澤 馨 氏 日東電工(株) 代表取締役 専務執行役員 品質・環境・安全統括部門長
	14:50～15:00	質疑・応答	
	15:00～15:15	グループ討論の主旨説明	大久保 尚武 氏 主担当組織委員
15:15～17:50	グループ討論（1）		
18:00～19:00	夕食（立食）		
19:10～21:00	グループ討論（2）		
21:00～23:00	談話室（参加自由）		
6/9 (土)	8:30～9:45	グループ討論報告（10分×6班※予備15分）	司会：大久保 尚武 氏 報告：各班リーダー（討論） ファシリテーター：長田 洋 氏
	9:45～10:00	休憩	
	10:00～11:30	総合討論	
	11:30～11:40	第94回 品質管理シンポジウム まとめ	大久保 尚武 氏 主担当組織委員
	11:40～11:50	次回（95回）品質管理シンポジウム案内	山内 康仁 氏 アイシン精機(株) 相談役 ※95QCS主担当組織委員
11:50～	昼食・解散		

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順, 敬称略) ※◎は第94回品質管理シンポジウム担当組織委員



岩崎 日出男
近畿大学 教授



丸川 隆夫
東京工業大学 教授



◎大久保 尚武
積水化学工業(株)
取締役相談役



酒巻 久
キヤノン電子(株)
代表取締役社長



宮村 鐵夫
中央大学 教授



山内 康仁
アイシン精機(株)
相談役

グループ討論

テーマ・趣旨・論点

第1班

持続可能な社会のための品質経営

■リーダー：大藤 正(玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授) ■リーダー：道添 順一(㈱ニチレイプロサーヴ 経営監査サポート部 グループリーダー)

趣旨

今あらゆるものがエコ化し、エコを考えない商材は市場に投入できないと思わせるほどである。一方、生活者の環境意識は先進国のなかでも圧倒的に高いと言われている。しかし、このようなエコ商材の市場投入と、高い生活者の意識が効果的に働いているにも拘らず、環境劣化が劇的に改善されていない。企業は、ライフスタイルに責任を持ち、新しいビジネスモデル構築に向けて大きく舵を切る時代だと認識しなければならない。持続可能な社会の構築のための、エコロジー(環境)とエコノミー(経済)の両立を目指した品質経営のあり方を討論したい。

論点

- ①エコロジー(環境)とエコノミー(経済)の両立を実現する品質経営のあるべき姿とは
- ②上記①の実現に向けて、現在重視すべき阻害要因とは
- ③先進事例に学ぶことを含めて、経営者が今すぐ推進すべき具体的取り組みとは

第2班

環境に配慮した新たな開発・設計

■リーダー：猪原 正守(大阪電気通信大学 情報通信工学部 情報工学科 教授) ■リーダー：宗像 令夫(㈱リコー MFP事業本部第二設計センター 兼 周辺機事業センター センター長)

趣旨

企業は、消費者のニーズを掘り起こし、ライフスタイルに適合した新商品の開発を行ってきた結果、少なからず環境劣化問題を誘引してしまっている。しかし、別の製品に代替するだけでは問題は解決されない。環境配慮と付加価値の両立を目指した新製品開発においては、再生可能な自然資源を有効に活用し、廃棄物をできるだけ出さず、資源循環製品の提供などの考え方に基づいた製品の開発・設計が重要である。顧客ニーズに加え社会ニーズも満たす開発・設計プロセスの実現に焦点を当てて討論をしたい。

論点

- ①環境に配慮した競争力構築のために、開発・設計が果たすべきあるべき姿を明らかにする
- ②あるべき姿を実現するための課題と問題について討論する
- ③問題を克服するための手段を明らかにする

第3班

環境負荷を低減する生産技術・製造プロセス

■リーダー：西 敏明(岡山商科大学 経済学部 経済学科 教授) ■リーダー：藤井 暢純(サンデン㈱ エレクトリックEngセンター センター長)

趣旨

製造プロセスにおける環境負荷低減活動は、廃棄物の低減、製造時投入エネルギー低減など実行されているが、未だに拡大型の大量生産・大量消費を前提とした従来の延長の取り組みに過ぎない。そこで、製造上の無駄や環境負荷を低減するために、新しい仕組み・技術で製造プロセスをイノベーションしていかなければならない。省エネ、省資源、廃棄物ゼロ、排水・土壌・大気の汚染防止など、地球にやさしい革新的な生産技術・製造プロセス構築に向けたマネジメントシステムについて討論したい。

論点

- ①生産技術・製造プロセスの低環境負荷を目指す企業のあるべきマネジメントシステムとは
- ②上記①の実現に向けた課題は
- ③課題を克服するために、どのような取り組みが必要か

第4班

グリーンサプライチェーンマネジメント

■リーダー：中條 武志(中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授) ■リーダー：新倉 健一(前田建設工業㈱ 総合企画部 マネージャー)

趣旨

持続可能な社会を構築するためには、個別の企業努力だけに頼る環境負荷低減活動では到底及ばない。上流メーカーからお客様に提供する下流メーカーまでの全てのサプライチェーンにおける取り組みが必要となる。環境情報を積極的に入手し、情報の共有化を図り、総合的に考えることが重要である。製造、物流、販売、サービスのサプライチェーン全体において、エコロジー(環境)とエコノミー(経済)の両立をはかる活動について品質経営の視点で討論したい。

論点

- ①環境と経済の両立をはかるサプライチェーンの目指す姿、必要要件とは
- ②目指す姿・必要要件の実現に向けた企業の状況と課題は
- ③課題を克服するために、どのような取り組みが必要か

第5班

環境ブランド価値創造

■リーダー：今野 勤(神戸学院大学 経営学部 経営学科 教授) ■リーダー：古谷 健夫(トヨタ自動車㈱ TQM推進部 主査)

趣旨

企業の環境への考え方・取り組み、製品・サービスが、企業のブランド価値を決める時代となっている。企業の役割は「人間らしく幸せに生きるための必要な豊かさ」を考え、責任を持って提供していくことである。エコロジー(環境)とエコノミー(経済)を両立させた新しい環境ブランド価値創造が企業の使命となっている。お客様への価値提供により、心豊かでワクワクする新しいライフスタイルを楽しんでもらい、社会に企業が認められてこそ、企業は環境ブランド価値を創造できたといえる。

論点

- ①環境ブランド価値を創造する企業と社会との関係は、どうあるべきか
- ②どのように新しい環境ブランド価値を創造し、製品・サービスや企業の取り組みに織り込むか
- ③新しい環境ブランド価値を社会にどう発信していくべきか

第6班

将来のビジョン達成を考えられる人材の育成

■リーダー：奥原 正夫(諏訪東京理科大学 経営情報学部 経営情報学科 教授) ■リーダー：谷川 正人(コーセル㈱ 常務取締役 生産・資材・情報システム統括)

趣旨

持続可能な社会の実現を考えるには、従来の延長の考え方(=ファアキャスト思考)では、発散型のライフスタイル提案となってしまふ。将来の新しいライフスタイルを前提に、現状を考えること(=バックキャスト思考)が、組織および個人にとって非常に重要となってくる。我々は「将来のビジョン達成のために、今何をしなければならないか？」を考えることができる人材に必要な力量とは何か、これを実現するためにはどのような課題があるかについて討論したい。

論点

- ①将来のビジョン達成を考えられる人材に要求される力量とは何か
- ②上記①の人材育成における問題・課題はなにか、これをどう克服するか
- ③組織として将来のビジョン達成を考えられる人材を持続的に育成するための仕組み(システム)とは

参加要領

開催日時

2012年6月7日(木) 19:30~6月9日(土) 12:00
(6月7日受付開始17:00~, 夕食18:00~)

会場

箱根ホテル小涌園「コンベンションパレス・蓬莱の間」
〒250-0407 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平
TEL. 0460-82-4111 FAX. 0460-82-4137

参加対象

企業の役員, 上級管理職の方々

申込方法

下記の参加申込書に必要事項をご記入の上, 郵送・FAXで下記宛お申し込みください。第1次〆切を4月23日(月)とさせていただきます。
(財)日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL:03-5378-1213 FAX:03-5378-9842 E-mail:tqmsemi@juse.or.jp

参加費

- 一般 105,000円/1名(消費税込み)
- 本シンポジウム賛助会員会社 1名無料, 2人目から42,000円/1名(消費税込み)
- ※食事代(6月7日夕, 6月8日3食, 6月9日朝・昼)は日科技連が負担いたします。尚, 宿泊費, 交通費はご負担ください。
- ※JR小田原駅をご利用頂く参加者の方は開催地までのバス送迎サービス(時間帯限定)をいたします。
- 集合場所: 小田原駅 西口 改札口付近
※バス会社のバスガイドが案内板を持ってお待ちしております。
- 発車時間: 6月7日(木) 16:50発車 ※17:30ホテル到着予定
※発車の30分前にバスは到着いたします。
- 定員: 53名(乗車人数)
※先着順になりますので, 定員を越えてしまった場合は, 誠に恐れ入りますが, 各交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

第94回 品質管理シンポジウム 参加申込書

※太い野線内は必ずご記入ください。(参加者名簿は下記内容をもとに作成しますので正確にご記入ください。)

ふりがな 参加者名		会社名	
所属		役職	
所在地	〒		
E-mail			

※GDの事前討論のためにメーリングリストを設置いたしますので, 大文字, 小文字, -(ハイフン), _(アンダーバー)などの区別を明確にご記入ください。

●希望するGD班に ○ をつけてください。 ※第2希望も必ずご記入ください。ご記入がない場合, ご希望のGD班に編成されない可能性があります。	
第1希望	・ 1班 ・ 2班 ・ 3班 ・ 4班 ・ 5班 ・ 6班
第2希望	・ 1班 ・ 2班 ・ 3班 ・ 4班 ・ 5班 ・ 6班
●開催期間中のご予定(下記の全ての事項にご記入ください)	
部屋	<input type="checkbox"/> シングル希望(32,000円/2泊(消費税・サ込)) <input type="checkbox"/> 2人部屋でよい(18,000円/2泊(消費税・サ込)) ※いずれかに印がない場合は, 事務局で決めさせていただきます。
喫煙	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない
食事	6月7日(木) <input type="text"/> 時頃ホテルに到着の予定 夕食 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	6月8日(金) 朝食 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要 昼食 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要 夕食 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	6月9日(土) 朝食 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要 昼食 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要

●連絡担当者(お申込受付後「関係資料」をお送りする方)			
会社名		事業所名	
担当部課・役職名		担当者名	
所在地	〒		
参加費	一般:	105,000円(消費税込) / 1名 ×	名 = 円
	シンポジウム 賛助会員会社:	1名無料, 2人目から42,000円(消費税込) / 1名 ×	名 = 円

※1社でのご参加が2名以上の場合は, お手数ですが当紙をコピーしてご記入ください。
※参加申込書を電子データでご希望の方は, 品質管理シンポジウム担当までご連絡ください。
※シンポジウム賛助会員は, 日科技連賛助会員とは異なりますのでご注意ください。

(財)日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当 行 FAX:03-5378-9842 E-mail:tqmsemi@juse.or.jp